

市政に関する地域座談会実施報告書

開催日時	平成21年 3月26日(木) 午後7時00分～午後9時00分		
会場	上河原公民館	出席者数	40人 (男35・女5)
地域座談会の内容(市長講話・質疑応答の内容等)			
<p><市長講話></p> <p>今年度予算は140億6千万円、前年度比0.8%の増</p> <p>景気雇用対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定額給付金 <p>3月24日まで市内約13,000世帯の内7,500世帯から申請があり、30日に支払う。月3回(10日、20日、30日)の支払いを予定していたが、できるだけ早く届けられるよう4月3日にも支払う。経済対策であり、すぐにも使っていただきたい。</p> ・プレミアム商品券 <p>4月中旬に商工会でプレミアム商品券(1割増)を発行する。登録した商店・事業所であればどこでも使える。</p> ・投資的経費 <p>20年度補正と21年度当初予算を合わせると21.7%増</p> ・雇用対策 <p>中央工業団地の企業にアンケート調査を行ったところ、正規雇用・非正規雇用含めて12月時点で270人を、2月時点では290人を3月末までに解雇せざるを得ない状況にあるとの結果だった。ハローワークの有効求人倍率では、県内で寒河江市が一番悪い。工業団地に勤める方のほぼ4割が本市の市民と推定されており、120人くらいの市民が解雇されると推測している。本市では3月30日に市議会臨時会を開き、ふるさと雇用再生・緊急雇用創出事業6,071万円を盛り込んだ21年度補正予算を通していただきすぐに対策を講ずる。その対策で100人くらいが雇用できると見込んでいる。市役所でも臨時職員として20名くらいの雇用を予定している。</p> <p>少子化対策(子育て支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てする親への経済的支援 <p>現在3歳までの子供の医療費が無料だが、これを就学前の児童の医療費を無料化とする。他市では小学6年生まで無料化するところがあるが、まずは公約の実現を図り、さらに先の目標を見据えながら一步一步進んでいく。</p> ・子育てしやすい環境の整備 <p>放課後児童クラブ、ファミリーサポートセンターなどの充実</p> 			

・地域や企業への支援

親が働きながら子育てできるような環境作り

これら3つの対策を組み合わせるって行く。

人口予測

17年の寒河江市は44,000人、西村山は19,000人、50年後の67年、寒河江市は31,000人だが、周辺の西村山の減少が大きく過疎化が進む。合併についても考えていかなければならない。

本市の44,000人のうち高齢者は17年11,000人(25%)、50年後の67年も11,000人(35%)、人数は同じだが高齢化率が大きくなり、働き手が少なくなる。このような状況をご理解いただきたい。

寒河江市の財政状況

・市債残高・実質公債比率

市債は市の借金だが、最高は平成15年の250億円、財政健全化に向けて借金をどんどん減らしていく計画としている。実質公債比率は国の示す基準で18%だが、平成22年度に17.7%とこれを切ることで見通しとなり、基準を下回る。「地域の活性化」と「財政の健全化」とのバランスを図りながら着実に進めていくことが大事である。

・財政調整基金

いざというときの貯金となるが年度末残高で18年度が9億5千万円、なかなか増やせない状況にはあるが、万が一に備えて増やしていきたい。地方交付税、2億増える、本来は3億円増えなければならない。不足分は借金してもよいとされ、臨時財政対策債は交付税で元利償還金は補填される。

財政状況も厳しい中ではあり、皆さんの要望に十分応えられない部分もあるが、元気で安心できる活力ある街づくりにがんばってまいりたいと考えているので、皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

(出席職員の紹介)

<質疑応答>

質問者A: 醍醐地区の田沢から農免農道が切れており、三泉財産区の山があるがこれと接して、雲河原・入倉50数名の法人の山が50町歩位ある。農免道路から軽自動車がようやく通れる道路があるがこの道路を林道として整備できないか。県村山総合支庁森林整備課やみどり環境課にお願いに行っても取り合ってもらえないと思うので、行政から手伝いしていただきたい。34年から10年かけて5町歩くらい植林し、伐採適齢期になってきたが林道(搬出路)がなく伐採できない。残りを県林業公社に貸している。以前、整備について農林課に話したことがある。

佐藤市長: 県の方に話をしてみる。

質問者B: 農業の活性化を第一に考えていただきたい。たとえば、最近さくらんぼの不作がつついているが、その原因として蜂の減少が取り上げられている。結実のためのマメコバチの導入に力をいれるとか。なにとは申し上げませんが

よろしくをお願いします。

佐藤市長：当然だと思う。農業が元気にならなければ寒河江が元気にならないし、寒河江だけでなく県も同じ。さくらんぼの話だが、紅秀峰も含めブランド力を高める。果樹園芸花卉園芸などの一大産地であり、農協も広域化しており大きなロットをまとめることがブランド力を高めることにつながる。一緒になってがんばっていく。このような中で行政の手立てとしての知恵などいただければ大変ありがたいと思う。

質問者 C: 仙台圏域との交流を充実するため寒河江市出身者の仙台寒河江会を作るとのことだが、仙台との交流を図ることによって特に観光農業が成長すると思う。東根市では寒河江市のまねをしてさくらんぼにこだわり、さくらんぼの種とばし大会やマラソン大会などを徹底的に行っている。本市においてもさくらんぼにこだわった街づくりを進めていただきたい。仙山線にトロッコ列車を左沢線まで延長するとの話を聞いたが、これを実施することによって仙台圏からさくらんぼ狩りにきていただくなど交流が図られると思う。山形セレクションにさくらんぼで認定されている人が少ない。三泉ではセレクションに出さなくても売れるとは聞いているが、ある制度を活用し、充実を図っていただきたい。行政が手立てしないとなかなか拡大しないのではと思う。行政が生産者と一緒になって力を入れていただければ違ってくると思う。就学前児童の無料化、天童市は6年生以下を無料化する。議会で6年生以下についても無料化してはとの質問に、地域座談会などでの意見を聞きながら進めていきたいと答えており、下水道の整備についても地域座談会の中での意見を聞きながら検討していきたいと答えているが、地域座談会はとかく要望が多くなりがちである。大きな問題については内容を絞って聞くようにすればよいのではと思う。保育所の充実化もやっていきたいとの話があったが、町中心部の保育所は建物も古く条件が悪い。是非、就学前児童の医療費無料化とあわせて条件整備を進めていただきたい。

佐藤市長：農業問題について、まずさくらんぼ。皆さんと話をしてみないと分からないもので、東根に対してライバル心を持っているようだ。以前は下に見ていたが段々力をつけてきた。市長が元気だからこうなったとは思いたくないが、みんなが一丸となってやっていくことは必要なことだと思う。今年は、置賜は天地人、庄内はおくりびとでにぎやかになるが、村山はさくらんぼだけ。そこをがんばらなければならない。置賜や庄内の観光客を是非寒河江市に呼べるように。

仙台は100万人都市。仙台には県人会や仙台長陵会があり、それらの人を交流して寒河江会をつくっていききたい。トロッコ列車については、JRと話をしているが、仙山線派トンネルが多く、普通のトロッコ列車は運行できない。フード付の列車があるとのことだが、これは予約が多くは入っておりすぐには無理なので、みこしの祭典に合わせて運行できるように話を進めている。そのときまでに仙台寒河江会ができてトロッコ列車のツアーでおいでいただければよいなと考えている。山形セレクションについては、条件が厳しいと参加す

る人の意欲がわからないと思われる。もう少し条件を緩和するなどし、みんなが意欲ももって参加できるようにすることが大切だと思う。子育てについて、医療費の無料化、保育所の充実することが大事である。これまで県が半分負担していたが、今は県が負担しないため市町村単独でやらなければならない。知事は市町村主体に支援すると言っており充実していきたい。下水道計画については財政的な計画もあり、周辺が進んでいない。新たな計画づくりも始まっており、そのようなことでがんばっていきたい。

質問者 D：一点目、中学校給食について、いつごろ実現するのか。二点目、選挙公約にスポ小のことが書いてあった。週に3回、三泉小学校のグラウンドでサッカーの練習をしているが、秋冬は日が落ちるが早くなり暗くなるので、保護者の車を並べそのライトを照明にして練習している状況にある。教育委員会に電話した。どうやったら醍醐小のように照明をつけてもらえるのかときいたところ「醍醐小は標準装備なんだと」と言われたが「ちがうだろ、佐藤市長がいたからつけたんだろ」と話をしたら、一発「予算がないからダメ」だと言われた。「だったら、中部小学校にもある。標準装備ならすべての学校につけてあげなさいよ」と話をした。なぜお願いするかというと、子供がアスキークラブに所属しているが、これには他の学校の子供たちも来ており、三泉小学校でケガをしたら申し訳ないと考えており、子供たちの安全安心のため、環境整備のためにもやってほしいとお願いした。私は、できないとの返事ではなく、どうしたらできるのかという前向きな返事がほしかった。河北とか山辺においては、グラウンド照明はだめだが、集合する場所の照明としてであれば付けられると聞いた。

佐藤市長：中学校給食については、2年以内に実施するとしている。実際には教育委員会でやっていただくことになるが、自分の意見を申し上げ、教育委員会では意見を取り入れていただき、体制を整えるとともに予算も計上した。教育委員会に担当を設けて進めていく。寒河江市以外の全市でやっており、最後となるが最後だけに寒河江らしい中学校教職を実現したい。もちろん地産地消で。いろんな方式があるが、どんな方式が寒河江に一番良いのか、適合するのか、施設の整備の可能性、外部への委託など様々なことが考えられるためあるていど時間を要すると考えている。教育委員会のほうで他の自治体を参考にして寒河江らしい給食を実現する。できるだけ早い時期に実施したい。

スポ小について、切実なお話で、地域座談会らしい質問かなと思う。公約では関連施設の整備を検討することを掲げたが、これは冬季でも練習できるような、屋内ドームのような施設を考えた。当面の課題として、子供たちの安全安心も大事ですし、ただ制度として集まるためだったら支援できるのでそのような目的で作ったら、ということがあったんだろうと思うんですけども市職員もできるだけ皆さんの要望を実現できるよう気持ちを持たなければ、拒否するようではだめで、前向きに考えていくことが大事であります。可能性について他市町村の状況なども勉強させていただいて要望に叶うようにしていきたい。

質問者 E：ゴミ関係だが、4月から新しい袋に変わるとのことだが、古い袋を全て使用

してから新しい袋に変わることが普通かなと思うが不都合があったのかお聞きしたい。

犬飼課長：料金を改定したが、古いゴミ袋を持っている方もいることから1年間だけ使用できるようにした。

佐藤市長：料金を改定し、便利な袋にしたとのことかな。

質問者F：さくらんぼの話だが、東根は山形県で有名だが全国ではやはり寒河江が有名。向こうでの品評会で上位入賞するのは寒河江のさくらんぼだけとの状況もある。この度、大阪の市場から初めて産地表彰というものをいただいた。寒河江市も一生懸命やっている。

景気雇用対策と併せて、さくらんぼの収穫作業に大きな労力がかかる。行政、農協、生産者あげて対応しなければならない。質のよい労力の確保できるよう、紅秀峰の生産拡大を図っているが将来的に大きな問題となる。農協に言っているが埒が明かないので市からも言っていたきたい。

ビックリ市のところの交差点、国道と県道の交差点がものすごく渋滞する。左折専用レーンを作れば緩和されると思う。

佐藤市長：雇用対策、公的な金を使うには団体を通して行うことが必要ですので、農協に話をして対策を講じていただく、それにある程度行政的な支援もする。そうして労力を確保するという緊急な課題としてがんばっていく。今年に限らない問題でありこれからどうしていくか考えなければならないと思います。

次に、道路の話についても、前回も出て、他の地区からも大変渋滞するとの、県の方にもはっきり言っていき対応してまいりたいと考えている。

質問者G：他の市町では夜間でも火葬場の申し込み状況の照会でき、葬儀等の段取りがスムーズにできる。寒河江では朝8時30分から届出をしないと確認できない。寒河江の火葬場でも夜間に照会ができるようにできないか。

佐藤市長：他の状況なども調べてみたい。

質問者C：駅前中心市街地活性化事業でジャズフェスティバルを実施するとのことだが、活性化にはならないのでは。見直しを行い農業振興に力を入れていただきたい。

佐藤市長：ジャズフェスティバルと農業振興では金の桁が違う。駅前に相当の費用を使い整備してきた。駅前にも熱心な若者もあり、是非やりたい。足湯ももう1箇所くらい増やし、美術館なども周遊できるようなコースも考えており、ある程度の時間を過ごせるということも大事であると考えている。農業ももちろん大事だが、他のことも大事であり、いろんな面で活性化につなげられるよう是非ご理解をいただきたい。

質問者C：バランスの取れた予算配分も必要かと思うが、ジャズフェスティバルよりも、最上川ふるさと公園でサマーフェスティバルをやったほうが

佐藤市長：蔵王でやっていたものを天童が引き継ぎ、さらに坊平へ、県の事業でやっているが、同じようにはできないが、いろんなことをやって活性化を図っていききたい。是非見に来ていただきたい。

質問者 H：高齢者から、最近高齢者世帯で片方を介護していたがその方も倒れ、二人とも施設に入ったと現状がある。今日、老人クラブの総会でふれあいサロンについて話があったが詳しくお伺いしたい。

(入倉町会長が経過を説明)

佐藤市長：高齢者の方々がいつまでも元気でいていただきたい、という願いであり、介護予防という気持ちもあり、いろいろな人と集まって講座などをやってきており、これまで24箇所やってきた。社会福祉協議会で実施しており21年度はプラス10箇所の34箇所やりたいと、予算を確保した。これまでふれあいサロンに男性の参加者が少ない。メニューを増やし、男性も参加しやすくして活性化を図りたいと考えているのでよろしく。

質問者 A：地縁団体の認可について、法人で税金を納めているが、専門家の話では、地縁団体に認定されれば無税になると教えられた。どのような団体が認可を受けられるか聴いたら、公民館や神社仏閣、あるいは整備している山林なども該当するかは認定する団体次第だ、とのこと。端的に言えば市が認定すれば法人市民税、県が認定すれば法人県民税、国が認定すれば法人税が免除になると聞いた。

佐藤市長：認定なるようであれば申請したいとのことか。

質問者 A：明後日、役員会があり、メリットがあるのであれば考えたい。

佐藤市長：調べて答える。

質問者 I：チェリーランドから対岸への橋について、ふるさと農道緊急整備事業で雲河原からタカへまで道路が整備されており、寒河江川に橋を架けていただきたい。

佐藤市長：十分頭に入れておきたい。

質問者 J：市の行政のありかたとして、三泉は何をするにしても八番目だが、新市長からは一番目ということでよろしくお伺いしたい。

佐藤市長：皆さんが一番目だと思ってやっていきたいと思っておりますのでよろしくお伺いします。

後日回答

<回答> 1. 林道整備について

林道等の開設については森林所有者から行っていただくのが原則ですが、地元で有利な開設手法について調査しました。

その結果、当該山林の隣接地について、現在、山形県林業公社が地上権を設定し施業管理しており、当該公社に作業路設置の計画の有無を確認したところ、昨年度までに必要な間伐作業を終了しているため、新たな作業路の開設計画はないとのこと。

また、県営の林道開設事業の採択要件は、受益面積が50ha以上で基準には該当いたしません。

ただ、現在、寒河江市と西川町で取り組んでいる「里山エリア再生計画」を変更し、森林所有者が事業主体となり作業路を開設することはできますが、国と県の補助残32%の地元負担金が必要となります。

2. さくらんぼの収穫作業時の労力確保について

西村山管内農業の雇用労力の確保、調整を図るため、寒河江市他4町、町会長連合会、シルバー人材センター、JA さがえ西村山で「さがえ西村山農業雇用労力対策委員会」を設置しております。

本市における昨年度の実績は、28人の求職申し込みがあり、14の方が「あくりヘルパー」として農作業の手伝いをしていただいております。今年度についての当委員会で募集を開始いたしておりますので、寒河江営農生活センターに申し込みをお願いいたします。